

子どもの人権をテーマとしたミュージカル「ハッピーバースデー ～命かがやく瞬間～」が、昨年11月22、23日の両日、博多区の市立博多市民センターで上演されました。出演者を公募する市民参加型のミュージカルです。子どもたちを中心に7歳から71歳の計65人がステージに立ち、いじめや虐待の悲惨さを訴えました。

作品は、同名のベストセラー小説を舞台化したものです。母親の虐待で声を失った主人公の少女「あすか」が、祖父母や自然と触れ合う中で命の大切さを学び、虐待や学校でのいじめに立ち向かっていく。そんなストーリーです。



いじめや虐待はなくそう 市民ミュージカルで訴え



出演者たちは昨夏から毎週末、練習を重ねました。「歌やダンス、演技」のレッスンはもちろん、「人の絆」や「命の尊さ」についても真剣に考えました。皆の思いをしっかりと伝えよう、と懸命に取り組みました。

2日間の公演には、市民ら延べ1,343人が訪れました。出演者たちは、悲しい場面では本当に涙を流すなど、熱のこもった演技を披露しました。観客たちも目を潤ませながらステージに見入っていました。「いじめや虐待はなくそう」との願いが、舞台と客席で響き合い、会場は大きな感動に包まれました。

DVD & 図書の紹介

「無関心ではいけない！障害者の人権」

～障害者差別解消法を理解する～ (DVD24分)

人は誰でも加齢によって足腰が弱ってきたり、視力・聴力が衰えてきたりします。いつかは身体などの不自由を感じる可能性があります。つまり、今障がいのある人が感じている不自由さは私たち自身の問題である、という認識が必要なのです。

この作品は国連の「障害者の権利条約」に基づく「障害者差別解消法」への理解を深めてもらうためのものです。

具体的に視覚障がい者、聴覚障がい者、車いすの方の日常を通して、障がいを理由にした差別や合理的配慮を怠った場合の差別について考えていくものです。

制作：株式会社映学社

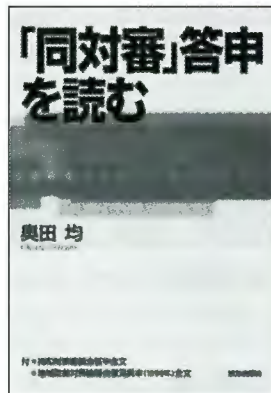


「同対審」答申を読む

同和対策審議会答申が出されて50年が過ぎました。「同和問題の解決は国の責務であり国民的な課題である」と明言し、全国の同和行政の指針となった「同対審」答申が一冊で分かるブックレットです。

また、答申と地対協意見具申全文を収録しています。

著者：奥田均
発行所：解放出版社



「ココロンセンターだより」No.63 発行：平成28年3月 福岡市人権啓発センター

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2丁目5番1号 健康づくりサポートセンター(あいれふ)8階 TEL092(717)1237 FAX092(724)5162
E-mail:jinkenkeihatsu.CAB@city.fukuoka.lg.jp ホームページ http://jinken.city.fukuoka.lg.jp
TEL092(717)1247(人権啓発相談室では人権問題に関する相談及び、研修会や学習内容に関する相談を受け付けています)

CONTENTS「主な内容」

- 人権啓発センター移転1年をふり返って..... 1P
- 登録団体紹介・人権啓発指導員のコーナー..... 2P
- 福岡市人権尊重週間「人権を尊重する市民の集い」..... 3P
- NEWS・図書・DVD紹介..... 4P



移転後1年をふり返って

～平成27年1月5日(月)、「あいれふ」に移転オープン～

福岡市人権啓発センター(ココロンセンター)は、福岡市健康づくりサポートセンター「あいれふ」8階に移転し、1年以上を経過しました。移転後は、より多くの皆様にご利用いただけるよう開館日を1年間で約40日増やすとともに、様々なイベントを開催しました。おかげさまで移転後、利用者数が大幅に増加(前年【1～12月】比 13,368人増)しました。今後とも魅力ある事業の実施に努めますので、ぜひココロンセンターにお立ち寄りください。

移転記念イベントの開催 (1月に下記のイベントをあいれふ10階「あいれふホール」で開催)

1月16日「ココロン映画会」

映画「ある精肉店のはなし」を2回上映。2回目は、監督の藤原あやさんの講演もありました。
2回合わせて188人の参加者がありました。



1月23日「ジョン・レノン追憶ライブ Dreamever.123」

テーマは「人権を考えるトリビュートライブ」、出演は「123 Dream Band」231人の入場者がありました。



多彩なイベントの開催

ココロンセミナー

同和問題をはじめ、さまざまな人権分野で、経験豊富な方々を講師に迎え、人権問題を身近なものとしてとらえていただくための講座を7月から12月まで6回開催し、延べ370人の参加者がありました。



人権劇場「ココロン座」公演

7月9日、「あいれふホール」にて、福永宅司さんの一人芝居による「同和問題を考える人権劇」を開催。福永さんの熱のこもった演技と人権課題の解決に向けた強いメッセージは参加者の心に深く響きました。200人を超す参加者がありました。



映画「チョコレートーナツで考える人権」を開催

8月9日に福岡市総合図書館映像ホール・シネラで、ゲイのカップルと育児放棄されたダウン症の子どもとの心の交流と、同性愛者への社会の差別意識、無理解を描いた映画「チョコレートーナツ」を開催しました。
上映にあわせて、LGBT(性的少数者)の人々の支援や普及啓発活動を行うNPO法人レインボースープ代表の小笠原さんから講演をしていただきました。
2回の上映会に約200人の入場者がありました。



～ハートフルフェスタ福岡2015開催～

10月4日、福岡市の恒例イベント「ハートフルフェスタ福岡2015」が、福岡市役所西側広場で開催されました。会場には約70の交流ブースが立ち並び、人権問題に取り組む多くの団体が出展し、日頃の活動のPRやフリーマーケットなど、さまざま交流で盛り上がりました。
ステージでは、タレントのユージさんが「いじめを受けてくれた私は、家族の愛で立ち直った」などと、家族の大切さを語りました。10神アクトのメンバーのトークや歌やダンス、福岡工業高校吹奏楽部やザ・トリビュート、当仁太鼓、増井ココロさん、中村学園大学短期大学部合同フラダンス部、などの演奏や踊りも、会場を沸かせました。過去最高の約2万2千人の来場者でにぎわいました。

ココロン映画会「ちづる」を上映

11月5日、福岡アジア美術館の「あじびホール」でココロン映画会を開催し、「ちづる」を上映しました。
この映画は、監督の赤崎正和氏が、重度の知的障がいと自閉症をもった妹・千鶴とその母を1年に渡り撮り続けた、みずみずしくも優しい家族の物語です。
2回の上映会に、合わせて135人の入場者がありました。



市民参加型ミュージカル「ハッピーバースデー」公演

11月22日・23日の2日間、博多市民センターホールにおいて、一般公募で選ばれた出演者たちにより市民参加型ミュージカル「ハッピーバースデー ～命かがやく瞬間～」の公演がありました。
4回の公演に延べ1,343人の参加があり、会場は参加者の熱い感動の拍手に包まれました。
※関連記事4ページに掲載



こんな団体が活動しています

公益財団法人福岡YWCA

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、世界中の女性が言語や文化を超えて力を合わせ、社会的に弱い立場に置かれている人たちの力を取り戻す国際NGOです。1855年、英国で始まり、今では日本を含む125カ国にあり、日本では25の地域YWCAと35の中学・高校のYWCAが活動しています。

福岡YWCAは戦後の平和の願いを込めて、女性が学び行動し発信する場として1948年に設立されました。心豊かな幼児教育、平和を担う青少年育成、女性が主体的に生きるための講座、教師養成を柱とした外国人への日本語支援など、平和・女性・子どもに関する活動を続けてきました。現在は、多世代多文化のコミュニティづくりを目指して、子どもの学習



日韓ユースボランティアキャンプ
晋州福祉園



ハッピースクール風景2015夏

ホームページ <http://fukuoka-ywca.jimdo.com/> TEL092-741-9251

支援ハッピースクール(宿題クラブ、海外から来た子どもの日本語学習)、東北の親子のための保養企画、子育て支援、日韓ユース交流事業、平和を構築する活動などを実施しています。

人権啓発指導員のコーナー

イマジンのメッセージ

15歳のとき教師から29回指導された。「宿題をしない」「態度が無礼」。昨年、少年時代の指導記録が話題となった。英国の音楽グループ、ビートルズの一員で30年以上前に殺害されたジョン・レノンのことである。「不良少年」のその後の活躍は周知の通り。自我が強く「空気」を読まない子どもでも、可能性を秘めている好例といえよう。

レノンの代表作「イマジン」は、ロンドン五輪の閉会式でも演奏された。「想像しよう。天国も、国も、宗教もない世界を。すべての人々が平和に暮らすことを」。先鋭的な歌詞が今も歌い継がれる。ファンとしてうれしい半面、少し複雑だ。

近年、中東を中心に国が崩壊し、テロと難民問題が世界を揺さぶっている。排除と憎しみが横行し、人間の尊厳が破壊されている。

イマジンのメッセージは、色あせるどころか、かえって鮮明に現代社会を問いつつある。もしレノンが生きていれば、この現実は何を思うだろう。(中川)

ボランティア

たまに行く川沿いのバーに寄ったときのこと。客は少なかったので男性のバーテンダーが「仕事のお帰りはですか?」と私に話しかけてきた。私は「仕事は仕事だけど、ボランティアワークの帰りなんですよ。」と答えたところ、バーテンダーは興味を持ったようで「どんなボランティアなんですか?」と尋ねてきた。私が「3年前にフィリピンから来日した中学3年生の男の子に勉強を教えているんです。」と答えると、バーテンダーの男性は驚いた様子で「一体どういういきさつで?」と体を乗り出してきた。私は「その子のフィリピン人のお母さんを前からよく知っていて、久しぶりに彼女と会ったときに「自分の子どもが日本の学校の勉強についていけず、このままでは入学できる高校がないと中学校の先生に言われているの。」と涙ぐんで言うので、なんとかしなければと思い、知り合いの大学生と二人で週に一回づつ勉強を見ているんです。」と答えた。バーテンダーの男性はしばらく考えて、ぼつりと「ボランティアというのは「義を見てせざるは勇なきなり」なんですね。」と。私は、「なるほど、そうなのか」と深く頷いてしまった。(井上)

第44回 福岡市人権尊重週間 「人権を尊重する市民の集い」

福岡市人権尊重推進委員会では、部落差別をはじめ一切の差別をなくすため、昭和47年から福岡市人権尊重週間(12月4日～10日)に各種行事を実施しています。本年度もその取り組みとして、「人権を尊重する市民の集い」を各区において、下記のとおり実施いたしました。

各区とも地域・学校・職場等からの特色ある実践報告や、同和問題をはじめ様々な人権問題について、多彩な講師により講演会が行われ、7区全体で2,665人の参加がありました。アンケートの集計では、参加者の満足度は、82.9%〔「大変満足だった」と「まあ満足だった」の合計〕でした。また、参加者の83%が人権問題への関心が深まったとしています。

まだ参加されたことのない方は、是非ご参加いただき、人権問題への関心を深めてください。

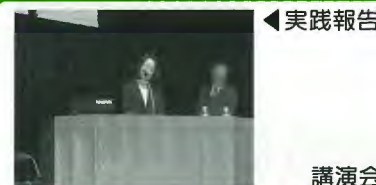
12/4(金) 西区 会場：西市民センター

▶実践報告 金武校区人権尊重推進協議会

通学合宿 ～家族になった4日間～

▶講演 毎日新聞報道部記者 林 由紀子

「子どもたちに学んだ人権」～京都・弥栄中を取材して



▶実践報告

▶講演会

12/5(土) 早良区 会場：早良市民センター

▶実践報告 さわら南よかここネット

さわら南よかここネットの取り組み

▶講演 弁護士 菊地 幸夫

出合いの人生から学んだこと



▶実践報告

▶講演会

12/7(月) 中央区 会場：中央市民センター

▶実践報告 福岡市立春吉小学校

福岡市日本語指導拠点校 春吉小学校の取り組み

～子どもたちが、生き甲斐、やりがいを感じる豊かな人生を送るために～

▶講演 福岡県人権推進協議会会長 稲積 謙次郎

元西日本新聞編集局長

元アミカス館長 野口 郁子

元西日本新聞文化部記者

法務省人権擁護委員 馬場 周一郎

鼎談「ヒューマンライツは複数形～記者たちの人権論」



▶実践報告

▶講演会(鼎談)

12/8(火) 博多区 会場：博多市民センター

▶実践報告 東吉塚小学校・吉塚中学校・東吉塚小学校PTA(おやじの会)

東吉塚校区人権尊重推進協議会

東吉塚校区「共生」～いじめゼロ実現プロジェクトの取り組みから～

▶講演 俳優 有馬 理恵

差別と戦争をなくすために～一人芝居「釈迦内枢唄」とお話し



▶実践報告

▶講演会

12/8(火) 南区 会場：南市民センター

▶実践報告 横手公民館・横手校区社会福祉協議会

認知症の人と家族を支える横手に～介護劇と座談会からよこの手カフェへ～

▶講演 翻訳家・新潟産業大学経済学部准教授 蓮池 薫

夢と絆を求めて～翻弄された運命の中で～



▶実践報告

▶講演会

12/9(水) 城南区 会場：城南市民センター

▶実践報告 障がい福祉サービス事業所 葦の家

「地域で暮らす人々とともに歩んできたまちづくり!」

～障がい福祉サービス事業所 葦の家の活動を通して～

▶講演 講談師・声優 一龍斎 春水

中村久子伝 ～生きること、生かされていること～



▶実践報告

▶講演会

12/10(木) 東区 会場：東市民センター

▶実践報告 福岡市立千早小学校

千早小学校における人権教育の取り組み

▶講演 映画監督 瀬藤 あや

「いのちを食べて いのちは生きる」



▶実践報告

▶講演会